

朝永正三先生と佐瀬武雄さんの卒業證書

牧 野 俊 郎
(京都大学大学院工学研究科)

The Diplomas of Professor Shozo Tomonaga and BE Takeo Sase

Toshiro Makino
(Graduate School of Engineering, Kyoto University)

Summary

In 1897, Kyoto Imperial University was founded, although only two departments of the College of Science and Engineering opened that year. One of the two departments was the Department of Mechanical Engineering. The first professor in the department was Shozo Tomonaga. He entered the Imperial College of Engineering and graduated from the Imperial University in 1888, and in 1898 was inducted as a professor at Kyoto Imperial University. In late 2007 his diploma from the Imperial University was discovered, an extremely surprising discovery. At the same time, the diploma of BE Takeo Sase from Kyoto Imperial University, issued in 1912, was also discovered. Sase's was from the College of Science and Engineering, which was in existence until 1914.

The diploma of Professor Tomonaga was analyzed and life in the Meiji period was examined, with reference to his precisely written notebooks from his courses of the Imperial College of Engineering. The diploma of BE Sase and his record in the alumni association are also introduced. Sase's diploma from the beginning of the Taisho era is compared with newer diplomas from the Showa and Heisei periods, providing a look at the transition of the significance of graduation in Kyoto and in Japan.

キーワード：朝永正三、卒業證書、工部大學校、帝國大學、京都帝國大學

Keywords: Shozo Tomonaga, diploma, The Imperial College of Engineering, The Imperial University, Kyoto Imperial University.

平成19（2007）年12月19日、5年前に京都大学をご退官になった藤尾博重先生から、物理系図書室には朝永正三先生の卒業証書があるはずだとのお話があった。藤尾先生は、図書室の引越のときにそれを見たと言っている。一緒にその図書室に向かい、そして、地下1階の書庫の階段の下に、紙に包んで丸めて置いてあったその証書を発見した。その隣に同様の状態のもう1つの卒業証書も発見した。それは、発見したというより発掘されたという感じであった。発掘されたのは、朝永正三先生の帝國大學工科大学卒業証書（明治21（1888）年7月10日）と佐瀬武雄さんの京都帝國大學理工科大学卒業証書（大正2（1913）年1月27日）であった。証書を包んだ紙はどちらも、鑑定するまでもなく平成の紙であった。

藤尾先生の仰った「引越」は平成になって2度あった京都大学機械系図書室と物理系図書室の引越を指すのであろう。しかし、2つの証書は、その前に明治・大正・昭和・平成の長い年月を、機械工学科の旧本館から工学部2号館、そして工学部物理系校舎のどこかを人知れず経て時代を生き抜いてきた。2つの証書の保存状態はすぐれてよい。私は多分に高揚していた。高揚のなかで、すぐに京都大学大学文書館に連絡をとり、その日のうちに、この京都大学史においてきわめて貴重な資料の処遇を決めた。



Photo 1 朝永正三先生

朝永正三先生 (Photo 1¹⁾、1866-1942) は、慶應元年 (陰暦) 12月15日 (1866年1月31日)、肥前にお生まれになった。明治政府の工部省が明治4 (1871) 年に設立した工學寮の後身である工部大學校に入学し、機械工學を専攻された。同校が司法省の法學校とともに東京大學と合併したその翌年の明治19 (1886) 年にできた帝國大學の工科大学を、明治21 (1888) 年に卒業された。その後、明治27 (1894) 年には農商務省特許局の審査官をお務めであったが (『職員録』、1894)、京都帝國大學設置前年の明治29 (1896) 年に教官予定者としてドイツ・アメリカに留学された (『京都大学百年史』、1998)。京都帝國大學は明治30 (1897) 年に設置され、その年に理工科大学の機械工學科と土木工學科が開設された。朝永先生ご卒業の帝國大學は、その際に東京帝國大學と改称された。先生は、ご帰朝後の明治31 (1898) 年に京都帝國大學理工科大学機械工學科の初代教授に就任して、機械工學第三・第一講座を擔任し、主に熱機關學を講じられた (『京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌』、2001)。大正4 (1915) 年の『京都帝國大學機械工學會々員名簿』には、先生は、工學博士 工學士 京都帝國大學工科大学教授であり、京都市廣小路通寺町東入にお住まいであるとある。電話をおもちで、その番号は上1123番であったようである。先生は、大正15 (1926) 年1月27日60歳の還暦の日を前にしてご退官になった。

『京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌』(2001) には、明治33 (1900) 年の授業科目表があり、そこには「熱學、熱氣瓦斯及石油機關」、「實地演習」の擔當教官として先生のお名前が見える。同記念誌には、平成9 (1997) 年の創立百周年記念式典における河本實名誉教授の特別講演の記録があるが、そこで朝永正三先生は“古武士然とした風格でございまして、…”と紹介されている。

昭和63 (1988) 年に、朝永正三先生ご令孫の朝永峰子さま²⁾ から京都大学機械系工学教室に、先生の工部大學校時代の厚さ1 cm のノート66冊とノート30冊相当のメモのご寄贈があった (Photo 2、Photo 3)。ノートの表紙には“The

Imperial College OF ENGINEERING”、右から横書きで“校學大部工”とある。緑のノートの底部には“NATURAL PHILOSOPHY”とある。ノートの右のページには流れるようなペン書きの英文が、左のページにはときに精緻な図がある。Photo 3 の左のページの図の説明には、*Apparatus for studying the Formation of Vapour* とある。ノートというよりこれらはむしろ書籍であると見える。それらは当時の機械工学の高等教育の最先端を記録する超一級の資料である。教室は、将来のキャンパス移転・専攻改組にともなってその貴重資料が散逸することを案じて、平成17（2005）年にこれらを京都大学大学文書館に寄贈しその管理を依頼した。教室は管理換に際して朝永峰子さまに連絡を試みたが果たせなかった。正三先生の弟君 三十郎先生（西洋哲学史）のご子息 振一郎先生（物理学）のご遺族には連絡可能であると思われたが、それは控えた。



Photo 2 朝永正三先生の工部大學校時代のノート

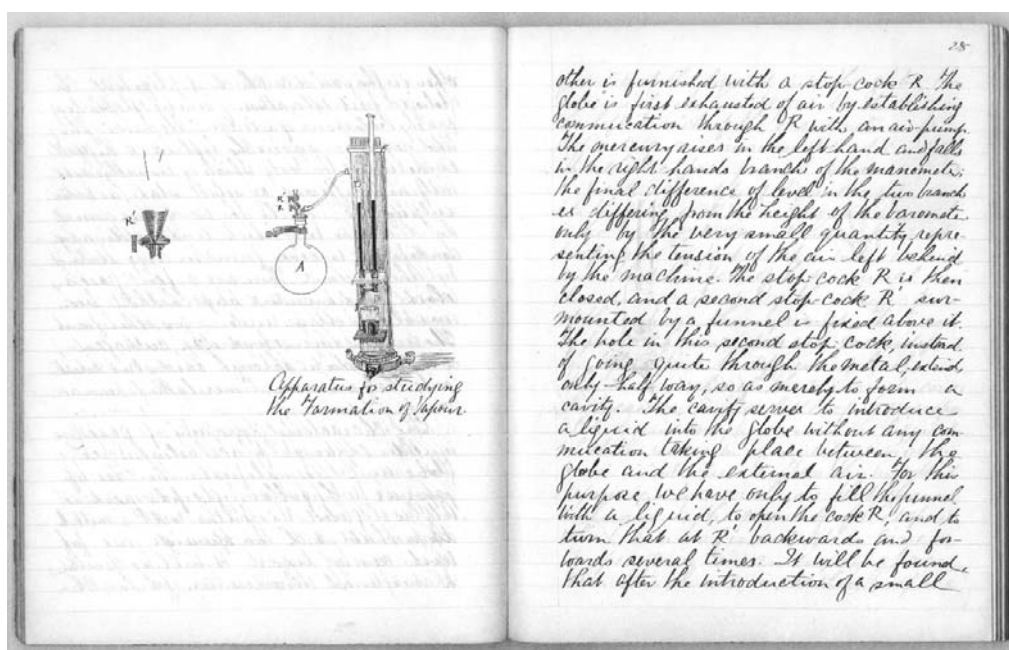


Photo 3 写真2の緑色のノートから

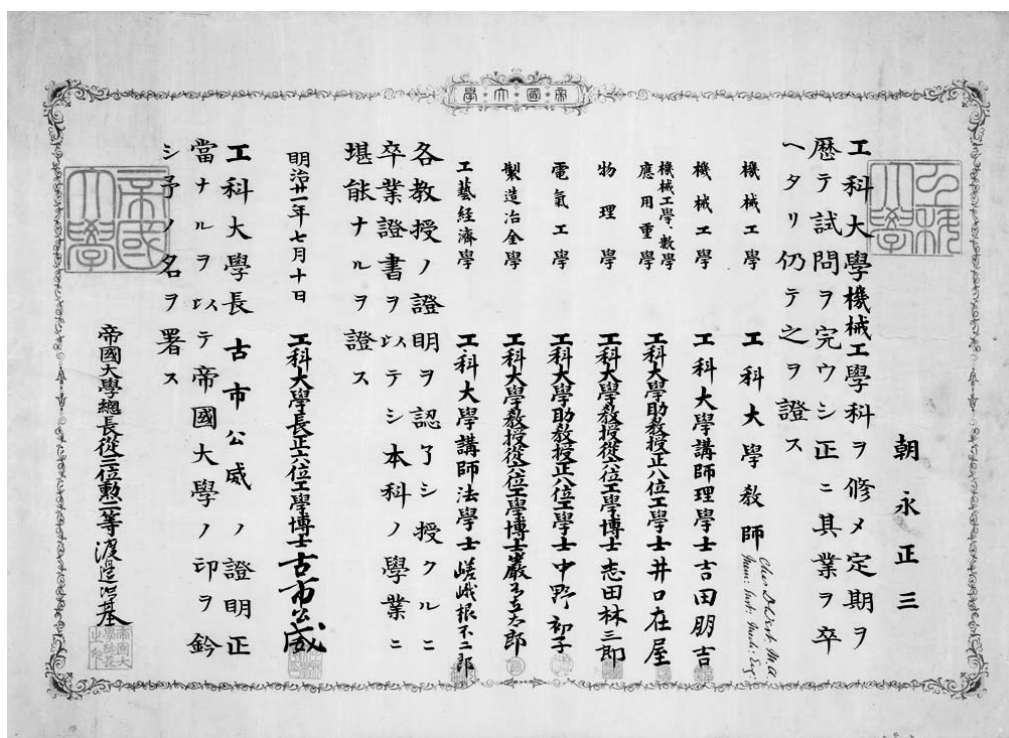


Photo 4 朝永正三 帝國大學工科大学卒業證書 (明治21 (1888) 年7月10日)

このたび発掘の證書 (Photo 4) は、643×466 mm と大きい。個別科目の認定が擔當教官の署名・印とともに卒業證書に現れている。工部大學校・東京大學の時代から帝國大學の時代になって外國人教師が数でわずかに 1/7 になっている。助教授・講師の数が多。工學士が重要な学位であるとわかると同時に、2 人の助教授が正八位に叙されているのはおもしろい。彼らは陸海軍の尉官クラスに擬されていたのかもしれない。證書で電氣工學を認定した中野初子助教授は、なかのはつね とお読みする男子で、しかし子年のお生まれではない。後に電氣學會會長をお務めになった方である (<http://www.ndl.go.jp/portrait/datas/152.html?c=0>)。この證書には「卒業證書」と頭書されていないが、「卒業證書」の文字は工科大学長の証明文に現れる。当時の帝國大學卒業は7月であったようである。證書の発行者である初代の帝國大學總長渡邊洪基は、學問の府を官吏養成所にしたとして評判のよろしくない人物であるが、勲二等とある。京都帝國大學の機械工學科第2代教授の大塚 要先生・第3代教授の松村鶴藏先生は、教室に残るお写真で勲一等の大綬を佩びておられる。時代の推移もあるのであろうがおもしろい。

卒業證書は個人に与えられるものである。なぜ、個人に与えられた證書が階段の下にあったのか。想像するに、当時卒業証明書の類のものはなく、朝永先生は職に就くにあって戸籍謄本とともに卒業證書そのものを京都にお持ちになった。その後、先生には、そのようなものはどうでもよいいくつかの証書の一つとなり、先生にもそれを預かることになってしまった大学でもその存在は忘れられた。1世紀余のときを経て、お節介な後輩が図らずもそれを見つけてしまった。そういうことであつたのかと思う。

京都帝國大學は明治30 (1897) 年に設置されたが、最初に開設された理工科大学は大正3 (1914) 年に至って工科大学と理科大学に分離された。その後、大正8 (1919) 年に工科大学は工學部と改称された。京都帝國大學理工科大学の組織が続いたのは、創設期の17年間であつた。

理工科大学最後期の 大正2 (1913) 年の佐瀬武雄さんの卒業證書 (Photo 5) には、第864號という番号がある。證書の発行者は京都帝國大學總長であるので、その番号は京都帝國大學が明治33 (1900) 年に第1回の卒業を出して以来の卒業者の数に対応するのであろう。明治33 (1900) 年の第1回の機械工學科の卒業者は11名であつた。その後、機械工學科では明治45 (1912) 年までに計220名が卒業、次の大正2 (1913) 年には佐瀬さんを含む20名が卒業した (『京機协会会员名簿』、2007)。機械工學科の卒業者が京都帝國大學卒業者に占める割合は、この分科大学の時代には



Photo 5 佐瀬武雄 京都帝國大學理工科大學卒業證書（大正2（1913）年1月27日）

かくも大きかった。佐瀬さんの卒業證書は1月づけであるが、大正9（1920）年までは7月卒業が通例であり、この1月卒業は例外的である。3月卒業が通例になったのは大正10（1921）年のことである。

佐瀬さんは、ご卒業2年後の大正4（1915）年の『京都帝國大學機械工學會々員名簿』（卒業者名簿、以下で『名簿』と呼ぶ）によれば、勤務先：南満州鉄道會社、連絡先：青島山東鉄道とある。その後の『名簿』（1920、1938、1940、1941、1942、1944）によれば、佐瀬さんは、大正9（1920）年には朝鮮總督府鐵道局技師で京城府龍山鐵道局に勤務、昭和13（1938）年と昭和15（1940）年には満州鐵道總局鐵道研究所に勤務で大連市に在住、昭和16（1941）年、昭和17（1942）年、昭和19（1944）年には朝鮮無煙株式會社に勤務で平壤府に在住とある。昭和30（1955）年以降の『名簿』には佐瀬さんについての記載はない。そして、いまでも京都大学機械系工学会にご逝去の記録はない（『京機协会会员名簿』、2007）。お名前を頼りにインターネットを探索すると、昭和4（1929）年に朝鮮總督府鐵道局燃料調査室發行の佐瀬さんの著書『煉炭物語』の紹介がある（<http://ci.nii.ac.jp/naid/110004412953/en/>）。

佐瀬さんの卒業證書は、われわれが目にするのできる京都帝國大學理工科大學の唯一の卒業證書であるであろう。その様式は現在の京都大学の卒業証書のそれに近い。近いがゆえに違いを比較したくなった。佐瀬さんのものと、手もとにある私と私の長男のものを Table 1 を作った。漢字は注意深くタイプした。より詳しく見ると、昭和47（1972）年の私の証書における「京都大學」の「京」の口部にはまん中に横棒があつて口は日になっている。下の表には再現できなかったが、「都」の偏の日部の左肩には「、」が付いている。証書の番号の変遷・証書の大きさの変遷は、世における大学の、さまざまな意味での変遷を示唆しているかに見える。

Table 1 卒業証書の変遷

番号	第864號	第10972號	工第39714号
頭書	卒業證書	合格證書	学位記
氏名	千葉縣平民 佐瀬武雄	福井縣 牧野俊郎	牧野研造
発行年	大正2（1913）年	昭和47（1972）年	平成15（2003）年
証明者	理工科大學長	工学部長	工学部長
発行者	京都帝國大學總長	京都大學總長	京都大学總長
大きさ	548×400 mm	545×404 mm	531×386 mm

そもそも、卒業証書は個人に属すべきものであるが、私は、上述の朝永ノートのとくと同様に朝永家にお尋ねすることなく、また佐瀬家をお調べすることなく、これらの証書を大学文書館に寄贈した。これらの証書は、現在、京都大学百周年時計台記念館東翼北側1階の大学文書館貴重書庫に保管されている。日本の高等教育史における重要な資料であり、京都大学がつづく限り生きつづけるであろう。

註

- 1) お写真は、京都帝國大學機械工學第一講座の流れを汲む菅原菅雄教授・佐藤俊教授・鈴木健二郎教授の担任の講座を経て、現在、牧野俊郎教授室に掲額されている。
- 2) 昭和63(1988)年当時、横浜市緑区にご在住。

文献

京都大学百年史編集委員会編 1998 『京都大学百年史』総説編、116-118頁。

京都大学機械系工学会 2007 『京機会員名簿』、9-11頁。

京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌編修委員会編 2001 『京都大学機械系工学教室第二世紀記念誌』、44-66頁、83頁、127-132頁。

京都大學機械工學會 1955 『京都大學機械工學會會員名簿』、53頁。

京都帝國大學機械工學會 1915 『京都帝國大學機械工學會々員名簿』、8頁、39頁。

京都帝國大學機械工學會 1920 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、18頁。

京都帝國大學機械工學會 1938 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、35頁。

京都帝國大學機械工學會 1940 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、31頁。

京都帝國大學機械工學會 1941 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、32頁。

京都帝國大學機械工學會 1942 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、36頁。

京都帝國大學機械工學會 1944 『京都帝國大學機械工學會會員名簿』、37頁。

内閣官報局 1894 『職員録』(甲)、211-212頁：農商務省 特許局 審査官 六等七級俸 審査第三課長 正七位 朝永正三 牛、市ヶ谷田、二、三三